

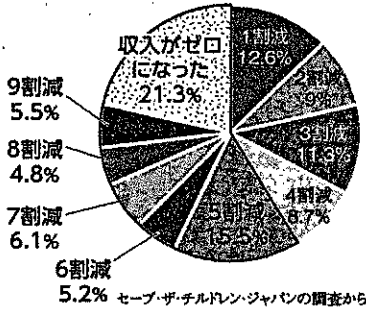
ひとり親世帯

収入ゼロ21%

「応援ボックス」利用

国際NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（理事長・井田純一郎）は5月、食料品などの支援物資「ひとり親家庭応援ボックス」を東京23区の310世帯に配布。申し込みの際に行った調査結果を6月4日に発表しました。新型コロナウイルス感染症の影響による、ひとり親世帯の深刻な実態が見えてきます。（手島陽子）

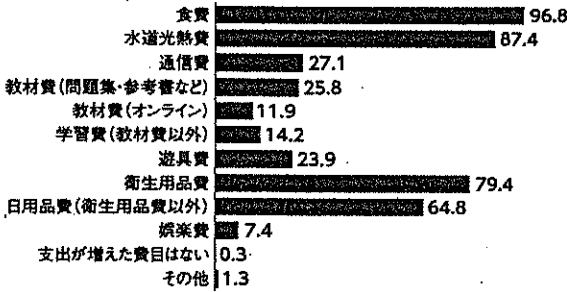
グラフ1 収入が減少した場合



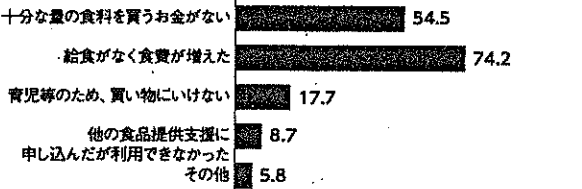
調査結果によると、「ひとり親家庭応援ボックス」を利用世帯の21.3%が収入がゼロに。約6割の世帯は収入が1割以上減少している。

「衝撃でした」。こう語るのは同団体国内事業部長の田代光恵さん。「休業などによる収入減を予想していましたが、それを上回る結果」といいます。

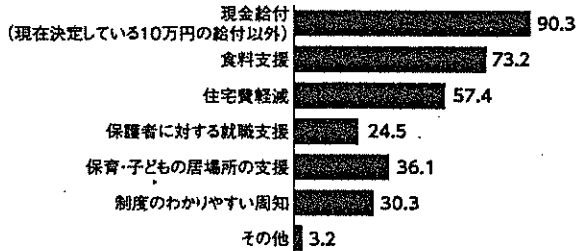
グラフ2 支出が増えた費目（複数回答、%）



グラフ3 応援ボックスの申し込み理由（複数回答、%）



グラフ4 必要な支援（複数回答、%）



「現金・食料を」多数

都内のシングルマザーは、もともと約45%が非正規雇用（東京都福祉保健基礎調査）で、厳しい状況におかれてきました。国の調べでは、母子世帯の平均年収は243万円、父子世帯が420万円。田代さんは「多くの家庭で月収が10万円程度、もしくはそれ以下に減ってしまったのではないかと話します。」

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）

「収入も減り、現在、家賃を2カ月滞納している状況ですが、支払えるめどもありません。毎日、貧困保証会社からの連絡におびえて生活しています」（50代女性、中学生）